

第213回 大阪小児科学会

◇◇ プログラム ◇◇

■ Aセッション(14 : 00～14 : 36)

座長 片山博視 (大阪医科大学 小児科)

1. 運動後急性腎不全 (ALPE) を呈した1例
大阪市立総合医療センター小児医療センター 小児総合診療科
山本直寛, 上田博章, 久富隆太郎, 藤丸季可
2. 化膿性リンパ節炎を契機に診断した重症先天性好中球減少症の1例
大阪医科大学 小児科
ト部馨介, 鈴木 亮, 井上彰子, 玉井 浩
3. 肺動脈の拡大によって気道閉塞病変を併発した心房中隔欠損症の2例
大阪医科大学 小児科¹⁾, 同 小児心臓血管外科²⁾
榊田 翠¹⁾, 岸 勘太¹⁾, 石川翔一¹⁾, 蘆田温子¹⁾, 篠原 潤¹⁾, 小田中豊¹⁾,
稲富 直¹⁾, 安井昌子¹⁾, 尾崎智康¹⁾, 長谷川昌史¹⁾, 片山博視¹⁾, 荻原 享¹⁾,
玉井 浩¹⁾, 根本慎太郎²⁾

■ Bセッション(14 : 36～15 : 00)

座長 高野智子 (大阪府立急性期・総合医療センター 小児科)

4. 当院における若年妊娠と出生児の経過に関する検討
大阪市立住吉市民病院 小児科
児玉菜津子, 三浦夕子, 川又 攻, 金 多章, 舟本仁一
5. 生後3ヵ月未満に中央急病診療所を受診した1年間280例の検討
大阪市中央急病診療所
藤田敬之助

■ 総 会(15 : 00～15 : 30)

議長 濱崎考史 (大阪市立大学大学院医学研究科 発達小児医学)

1. 平成28年度決算報告及び平成29年度予算審議
2. 小委員会報告
3. 平成28年度優秀演題賞表彰

優秀演題賞受賞記念講演

座長 新宅治夫 (大阪市立大学大学院医学研究科 発達小児医学)

「教室場面の動画を用いた視線解析による自閉症スペクトラム児のスクリーニングの有用性」

関西医科大学 小児科学講座¹⁾, 同 小児発達支援 (名張市寄附) 講座²⁾,
同 生理学第二講座³⁾
樋口隆弘¹⁾, 石崎優子¹⁾²⁾, 則武 厚³⁾, 柳本嘉時¹⁾, 小林穂高¹⁾²⁾, 金子一成¹⁾²⁾

「福島原発事故の健康被害について」

座長 高松 勇 (たかまつこどもクリニック)
稲田 浩 (大阪市保健所)

1. 「福島県内での甲状腺がんの多発状況と100mSv 閾値問題」

岡山大学大学院 環境生命科学研究科
津田敏秀

2. 「現時点での甲状腺がんの発生状況について」

広島赤十字・原爆病院 小児科
西 美和

3. 総合討論

- A～Bセッションは講演各6分，討論各6分とします。

第7回「低線量被ばくを考えるセミナー」

「津田敏秀先生（岡山大学教授）を囲んで」

日時：4月1日(土) 17:40～19:00 医学部学舎 18階 会議室

第213回大阪小児科学会（大阪市立大学医学部学舎4階大講義室）

終了後に、同じ学舎ですのでエレベーターですみやかに移動し開催いたします。

講師紹介：津田敏秀先生（岡山大学大学院環境生命科学研究科・教授）は、福島原発事故後の健康被害の科学的分析，疫学的検討における本邦，ならびに国際的に第一人者でおられます。国際環境疫学会が発行する“Epidemiology（疫学分野のトップジャーナル）”に福島県の小児甲状腺がん多発を疫学的に分析した論文を発表され、2015年10月オンライン上で先行公開されて、2016年5月に正式掲載され、今話題になっています。論文が掲載に至るには、専門家たちの厳しい査読を経ており、甲状腺がんの異常多発という事実が、質の高い科学的根拠として国際的に評価されたことを意味しています。

最近は、「第5回放射線と健康についての福島国際専門家会議」(2016年9月)や、甲状腺がん多発に関する「批判論文」も幾つか出ています。しかし、その内容は、甲状腺がん発見の地域差の検討やチェルノブイリの患者の年齢比較などにおいて科学的内容に大きな問題点が指摘されています。

当日のセミナーでは、津田先生とのディスカッション形式で進行を考えています。上記の話題に関して、医療的論争の現状を多角的な角度から議論し、課題の持つ深さを理解し、解決の方向性を検討していきたいと考えております。奮ってご参加ください。

主催：大阪小児科学会地域医療委員会